

びるか 議会 です

こんにちは。

2023年8月
北海道／美深町議会



ゴールを目指せ！

4年ぶりの通常開催

ダウン・ザ・テッシ-オー・ペツ 2023

補正予算 生活支援・産業振興へ重点配分 .. 2~3ページ

一般質問 新町長・教育長へ7議員 .. 5~12ページ

交流報告 仁宇布中学校3年生との交流学習 .. 13ページ

特集 函岳のめ .. 14~15ページ

**街&仲
インタビュー** JA北はるか青年部 .. 16ページ

第126号

美深町議会

検索

ホームページから
議会の情報をご覧
いただけます。



この議会広報は、地球にやさしい
再生紙を使用しています。

令和5年 第2回定例会

【6/19~30】

政策予算

生活支援・産業振興へ重点配分

改選後、初となる定例会が6月19日開会し、町政及び教育行政の執行方針が示されました。28・29日の一般質問は7人の議員が登壇し、草野町長、杉本教育長とのまちづくりへの議論が行われ、30日には、提出議案の質疑・採決を行い、全議案を可決し閉会しました。

一般会計 補正予算

草野町長の政策予算と、コロナ緊急対策事業（第13弾）を中心に提案されました。

物価高騰により厳しさが増す住民生活の支援と産業の振興に重点がおかれ、生活支援では、国の事業で非課税世帯860世帯に3万円、町の事業で課税世帯1150世帯に1万2千円分の商品券が支給されます。
また、子育て支援として、非課税世帯の児

童40人に一人5万円の給付金が支給されます。

主な質疑

体育館耐震調査

問 この予算は、関係機関と協議したうえでの結果なのか、また改修内容や財源は。

答 昭和54年建設で大規模改修の時期に来ており、総合計画に沿ったもの。耐震調査で現状分析を行い、今後の議論を



耐震調査が行われる町民体育館

スタートさせたい。調査の結果、必要な工事を行う場合は、国の補助が考えられる。

酪農・畜産緊急支援

問 これまではコロナ対策金がある効だったが、今後はなくなることも考えられ、対策が必要な時の財源は。

答 なくなった場合は厳しくなるが、必要な措置は農業予算の中で確保していく。

出産子育て応援給付金(新規)

問 妊娠・出産の相談支援との併用が素晴らしい。今年だけでなく、継続する事業か。

答 給付金は、今後も継続して実施したい。

びふか温泉の浴室改修

問 「洗い場間仕切り」設置の内容と工期は。

答 石材パネルを設置。電気関係工事と合わせ短期間で実施したい。

電動キックボードの安全対策は

問 気軽な移動手段になるが、安全の確保のため、講習などは行われるか。

答 町はナンバーを交付するのみで、販売店による説明が主体となる。講習会の計画はないが、警察などと今後の対応を検討したい。

質問者

荒川・藤原
小口・望月
和田・田中

原案可決 全員賛成

主な政策予算	金額(万円)
酪農・畜産価格高騰緊急支援(新規)	3,000
プレミアム付商品券発行支援	2,620
非課税世帯 電気・ガス・食品価格高騰支援給付(新規)	2,651
課税世帯 生活応援特別給付(新規)	1,444
非課税世帯 子育て世帯生活支援特別給付(新規)	231
出産子育て応援給付金(新規)	400
特別養護老人ホーム移転改築基本設計支援(新規)	3,608

特別会計
補正予算

水道配水管更新設計

耐用年数を経過した配水管を順次更新するための実施設計。

問

配水管更新事業計画の内容は、

答

安全な水道水の供用のため、令和6年から10年間の計画で、主に直径100mm以上の配管約3200mを更新する。事業費は現時点で3億7000万円と想定。

質問者

望月

原案可決 全員賛成

条例の制定

「快適な住まいづくりと商工業振興条例」

これまでに加えて再生可能エネルギーの対象範囲や中古住宅を購入する移住者にも補助を拡大。

問

移住者以外が中古住宅を購入した場合のことは検討しなかったのか。

答

検討したが、移住推進に繋げることを優先した。

質問者

田中

質疑後、産業教育常任委員会へ付託

委員会付託とは

新しい条例は担当委員会で審査し委員会採決後、本会議に報告され、質疑・討論・採決が行なわれます。

委員長報告

●和田委員長 審査の結果、本委員会は原案どおり可決すべきものとした。

委員長報告に対する質疑

●小口 条例案では、中古住宅取得の補助対象が移住者のみだが、どのような議論だったのか。

●和田委員長 同様の議論もあったが、本委

討論

員会では人口減少に少しでも歯止めがかかるよう移住者対策を求めてきた経緯があり、今回の内容は容認できるとし、可決すべきものとした。

原案(新条例)に反対

中古住宅の取得は、移住者だけでなく定住する町民も対象とし、補助額も上積みした条例にするべき。小口

原案(新条例)に賛成

旧条例でも優れた実績を上げ、町民からの継続への期待は大きい。移住者を対象に加え、中古住宅購入の追加、ゼロカーボンへの貢献も組み込んでおり、まずは早急に再スタートさせるべき。望月



原案可決 賛成多数

多くの町民も認知していて、条例の成立を待っている住民もあり、今議会で成立させるべき。藤原

町民、移住者共に補助を受ける条件に差はなく、移住者に補助が増えただけで、定住に繋がれば問題ない。名取

条例の一部改正

「乳幼児等医療費の助成に関する条例」



条例を一部改正し、医療費助成の対象を18歳まで引き上げました。

問 対象者66人、想定額が50万円だが、現在どのくらいの利用実態があるのか。

答 国保加入の高校生15人で11万円の利用実績を基に、66人換算で49万円とな

ることから、想定額を50万円とした。

質問者 藤原

原案可決 全員賛成

採択した意見書

①日本政府に核兵器禁止条約の参加・調印・批准を求める意見書

②ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書

意見書の詳細はこちらをご覧ください



第4回臨時会

5月29日

工事請負契約の締結

美深小学校体育館改修工事

問 工事期間中の体育授業への支障を減らすための考えは。

答 屋外での授業実施のほか、必要な場合は、町民体育館の使用も検討している。



改修工事が始まった美深小学校体育館

問 どの程度が国の補助対象なのか。

答 耐震に係る工事費の3分の1を予定。

質問者 望月・荒川

原案可決 全員賛成

北1丁目道路改良舗装工事

問 北3丁目の道路工事後に一時停止の標識が変更された。今回の工事について警察署、公安委員会への確認はしているのか。

答 事前協議と現地確認を受けており、標識を変更するとの連絡はない。町としては現状維持を要望する。



問 町の中心であるが、お祭り期間中の屋台について対策は。

答 体育館横のイベント広場等を使用してもらうなどの協議を進めている。

質問者 荒川・藤原 田中

原案可決 全員賛成

7議員
町政を問う

一般質問

公開中!!

YouTube

それぞれのQRコードから見られます

一般質問の各ページは、質問した議員自身が
質疑を要約し原稿作成しています。

望月 清貴 議員



- 「これからが大事」美深町の福祉と医療を守るために
- 「住み続ける、住んでみたくなる、まちづくり」安全で安心なまちづくりについて

藤原 芳幸 議員



- まちの課題へどう対応するか
- 特色ある教育の推進

名取 明美 議員



- 草野新体制における福祉の方向性について

中瀬 亮太 議員



- 水田活用直接支払交付金の見直しに伴う今後の美深町農業について

木下 広悠 議員



- 美深町のSNSを利用した宣伝活動について

田中真奈美 議員



- 子育てしやすいまちづくりについて

小口 英治 議員



- 仮称 子ども未来トークについて
- 町民のためのより良い町役場づくりについて
- 美深振興公社の健全経営について



一般質問とは・・・

各議員が町政に対する自らの考えを基に行政機関の考えを問うものです。

期日までに質問通告書を提出した議員が質問できるもので、全議員に質問する権利があります。

- 「これからが大事」美深町の福祉と医療を守るために
- 「住み続ける、住んでみたくなる、まちづくり」安全で安心なまちづくりについて



望月清貴

福祉と医療を守るまちづくりを

議員と同じ考えだ

問

答

●美深町の福祉と医療を守るために
草野町長の就任にあたり福祉と医療への考えを聞き、人口減少に抗して重要な生活インフラを守りたい。

①基本的な考え方
子育て支援、障がい者支援、介護と高齢者支援、地

域医療は町民の生活基盤で、持続するまち、人口維持につながる。状況は厳しくなるが、これらを守るための考え方を伺う。

町長

議員と同じ考えだ。人材確保やインフラ整備で、安心して暮らせるまちづくりに努める。

②子育て支援について
国は「次元の異なる対策を」としたが、市町村が競いあわされるように進めているのが実情だ。幼児センターの人員配置の努力、保育料や学校給食費の軽減の継続、充実の検討は。

町長

いづれも国・道の施策を見据えながら継続したい。

③人材確保の取り組み
福祉と医療の人材確保は、すでに厳しい状況だ。事業者との連携で、「オール美深」での早急な対策が必要だ。

町長

あらゆる業界で確保が課題だ。横断的な協議を進めるよう、指示を出した。

町長

特別養護老人ホームの建替は、老朽化と水害時の浸水回避のため、移転改築を計画。経営移譲した美深福祉会が主体となり、令和7年度着工を目指す。法人主体に敬意を表する。

町長

公設民営から民設民営になるが、運営は委譲しても町の責任までは委譲できない。ケアマネなど多くの地域ケア関係者との協議、町民が安心できる説明は、町の責任で進めると約束してほしい。かけがえない大切な施設、みんなで作り上げる考え方が必要だ。定員の変更、介護保険料への影響も含め、町も万全の態勢で臨み、機会をとらえて説明を進める。

町長

安全で安心なまちづくりについて

特養移転改築の説明は町の責任だ

機会をとらえて説明を進める

問

答

問

避難施設の発電設備やバリアフリー改善は

今後の改修に 合わせて検討する

答

特養移転改築の概要
美深福祉会が工事主体。
駅東側で、定員40床、短期入所8床、デイサービス15人を予定し、引き続き協議する。
令和5年度基本設計、6年度実施設計、7年度着工を目指す。

●安全で安心なまちづくりについて

町長

町民体育館や各コミセン等は、大切な避難施設だ。ブラックアウトのような災害に備え、太陽光など発電・蓄電設備やバリアフリー改善は、また、小地域マイクログリッド（小規模電力網）導入の考えは。

●安全で安心なまちづくりについて

町長

発電設備は今後の改修等に合わせ検討。屋内は車いすに十分とはいえない面もあり、優しく使いやすい改修を考えたい。マイクログリッドは有効だが、先進地の成果も見極めたい。

ドは源定工地道や害の整
グリッドは給一産落災帯、
と供をめ地み集の地とい
小規模電力施設を組小間農な
マイク電力一施ま一仕、設酪保
※工とネ消困ルすで共策力が
エと範ネ消内公対電備



名取明美

●草野新体制における福祉の方向性について

問

福祉専門職への修学資金貸付強化と
就業一時金貸付の採用は

答
人材確保していくために、
積極的に改善を行う

質問

福祉人材の確保・育成・定着を図るためには、医療関係の保健師・看護師・准看護師と同様に、福祉従事者への自治体助成制度の見直しが必要では。

町長

各産業で働き手の確保は深刻な問題である。修学資金貸付制度として、福祉関係は介護福祉士のみ対象となっている。

質問

現在、対象職種の拡大を検討している。

町長

北海道の市町村で貸付制度を設けているのは17市町村で、平均4・9万円（月額）。町は月額2万円で全道平均を下回る。福祉サービスの質の向上として人材確保をしていく必要があるため、助成制度の改善をする。年内に条例改正し、来年度以降の人材確保対策として進めていく。

質問

医療関係と同様に、福祉従事者への自治体助成制度の拡大は、人材確保と福祉サービスの向上につながると思うが。

町長

一時金制度は、町内の病院や福祉施設に常勤職員として就業する者に対して貸付している。助成制度の拡大により、質の向上につながる。人材確保については、



質問

介護福祉士への就業一時金貸付の採用の考えは。今後も積極的に取り組んでいく。

町長

福祉サービスの質の向上として、就業一時金貸付についても、具体的な金額は言えないが、見直していく考えでいる。

質問

福祉人材確保と定着は、福祉サービスの向上につながると思うが、町長の福祉に対する思いは。

町長

産業振興と同様に力を注いでいければと思う。制度拡充により、町内事業者がPRし、人材確保、定着につなげて頂くようお願いしたい。

質問

専門職の確保により、入居者の希望に合う施設になると思うが。

町長

専門職の確保は大切。続けていかなければならない。社会福祉協議会主催の研修が行われ、やさしいやりにつながればと思う。

質問

理学療法士、社会福祉士、精神衛生福祉士などに対しても助成制度が必要だと思うが。

町長

最終的には専門職員を確保して、美深の町民が本当に安心・安全に暮らせるまちづくりに繋がることを考えている。



●美深町のSNSを利用した宣伝活動について



木下 広 悠

問 SNSを活用して美深町の魅力を発信する意思はあるか

答 前向きに検討して準備が出来次第始めていく

質問 現在、美深町では目立ったSNSを利用した宣伝活動が少ないという印象。理由としては美深町は私が調べた限りではSNSの公式アカウントを保有していないことや、知名度ネットという自治体の知名度を推計で出してくれるサイトを利用すると日本全国で美深町の知名度は一割程度であったこと。

町長 SNSの公式アカウントの数はゼロ、ホームページのアクセス数は、閲覧者数7万9564人、閲覧回数13万1324回という状況。

町長 年間広告費の総額は8社に年間約480万円、その他雑誌の広告として年間約20万円を支出している。

質問 SNSに限らず美深町の宣伝活動の現状を数字を基に教えて頂きたい。

町長 SNSの公式アカウントの数はゼロ、ホームページのアクセス数は、閲覧者数7万9564人、閲覧回数13万1324回という状況。

町長 年間広告費の総額は8社に年間約480万円、その他雑誌の広告として年間約20万円を支出している。

質問 SNSに限らず美深町の宣伝活動の現状を数字を基に教えて頂きたい。

町長 SNSの公式アカウントの数はゼロ、ホームページのアクセス数は、閲覧者数7万9564人、閲覧回数13万1324回という状況。

町長 年間広告費の総額は8社に年間約480万円、その他雑誌の広告として年間約20万円を支出している。

ついで所見を伺う。

町長 現在SNSを利用した宣伝活動は殆ど行えていない。担当する人材等の問題もあり、なかなか踏み切れなかった。

町長 SNSに限りず美深町の宣伝活動の現状を数字を基に教えて頂きたい。

町長 SNSの公式アカウントの数はゼロ、ホームページのアクセス数は、閲覧者数7万9564人、閲覧回数13万1324回という状況。

町長 年間広告費の総額は8社に年間約480万円、その他雑誌の広告として年間約20万円を支出している。

質問 SNSに限らず美深町の宣伝活動の現状を数字を基に教えて頂きたい。

町長 SNSの公式アカウントの数はゼロ、ホームページのアクセス数は、閲覧者数7万9564人、閲覧回数13万1324回という状況。

町長 年間広告費の総額は8社に年間約480万円、その他雑誌の広告として年間約20万円を支出している。

ツイッターは5割、インスタグラムは4割、フェイスブックは7割、ユーチューブは6割。美深町は出遅れているように見えるが、私が見た限りでは各自治体もSNSを使いこなせている印象は無い。今本気で取り組めば十分美深町が復興する希望はあると思う。今後町としてSNSを活用していく意思はあるのか。

町長 私自身の選挙公約にSNSを活用することが掲げていたのもあり、既に職員に準備を進めて貰っている。

町長 色々と下調べが必要なので少しは時間が掛かるが前向きに検討していく。

質問 SNSを活用した宣伝活動を行うのかを定めた上で活動を始めて行く、と約束して頂

きたい。

町長 様々な準備があり分らないことが多いのでいつまでもには約束は出来ませんが、準備が出来次第発信していこうと考えている。

用語解説
SNSとは
ソーシャルネットワーキングサービスの略でインターネットのコミュニティサイトのこと。利用者が情報発信できるサービス。





田中 真奈美

●子育てしやすいまちづくりについて

問

ファミリーサポートや居場所づくりの考えは

答

ニーズの把握と今ある施設の有効利用を

新しくなった美深町の体制で子育てしやすい健やかな安心して暮らすまちづくりとしてできることがないのかを伺った。

①働く保護者のため、ファミリーサポートを設立する考えは。

町長

町への要望などは届いておらず、直ちにファミリーサポートを設置する考えは持っていないが、

今後ニーズの把握に努めていく。

質問

以前も農業者の子育て支援で習い事の送迎などの話もしている。小学生を一人で留守番させるのも心配との声もある。社協の「ちょこっとした困りごと相談」を活用できるようにするなど、今あるシステムを使うことはできないか。

町長

どのくらいのニーズがあるのかも含めて勉強していきたい。



②室内遊具や中高生の居場所づくりの確保の考えは。

町長

室内で遊ぶことができる施設としては、児童館や幼児センターの遊びの広場など既存の施設を活用していただきたい。

中高生の集いやすい居場所についても、新たに中高生の居場所を確保するというよりは、現有施設を有効に活用してほしい。

質問

今後の体育館の在り方について検討していると思うが、遊具についても検討していただきたい。中高生の居場所づくりについて、COM100のエントランスに使いやすい椅子を置くなどの工夫が必要では。

町長

どついったニーズがあるのか聞いていき、今ある施設を有効に使う

のが1番と考えている。



③熱中症などから子どもたちを守る対策は。

教育長

保護者には熱中症対策のリーフレットを配布し、児童生徒の命と健康を守る体制整備に努めている。授業中においても適時水分補給を行うなど指導しているほか、児童生徒へ注意喚起している。幼児センターにおいては、熱中症の危険がある日には、園児が体を動かさすぎないように注意しながら水分補給や休憩等体調管理を行っている。

質問

注意喚起や水分補給など自ら

教育長

ハード的な対策としては、今後エアコンについても一定程度検討しているが、学校や教育委員との話し合いの場を経ているから進めていかなければならない。

用語解説

ファミリーサポートとは

子育て中の主婦等を会員として、援助を受ける人と援助を行う人との連絡・調整を行う事業。

詳しくはこちらをご覧ください



- 仮称 子ども未来トークについて
- 町民のためのより良い町役場づくりについて
- 美深振興公社の健全経営について



小口 英治

問 子どもの成長には模擬議会が必要

答 まちづくり未来トークをより有意義なものとしたい

質問

草野後援会資料の中に仮称「子ども未来トーク」を開催する旨の記載があるが、議場の有効利用も考えられるし子供の成長にとっても寄与する部分が多いと思う。取組む内容と実施時期はどの様なものか、併せて子ども権利条約の考えも伺う。

町長

名称はまちづくり未来トークとし、7～9月に実施すべく準備中で地域体験学習の一環として実施し、町長・教育長が学校に出向き子どもたちの意見、提言等施策に活かせる事が出来るようにしたい。初年度なので実施した中で、次年度に向けてより有意義なものとしたい。

「子ども権利条約」は国においても批准しているので町独自の制定は考えていない。

問

赤字の経営責任は

答 厳しい自覚と責任を持つ

質問

いきたい。

質問

美深振興公社は昨年7月資本金の増資と道の駅アウルとの合併で経営基盤の強化を目指したが結果は1817万円の損失を計上した。

町長

両施設とも、売上は増加しているものの販売管理費（燃料・電気・原材料費・人件費）が合併効果を上回ることとなった。今後も高止まりが続くと思われるので、料金改定も考慮しなければならぬ。

質問

この施設は本来の目的である地場産品の販路拡大・商品開発・情報発信など、本町の産業活性化を担う施設でもあり、雇用の創出にもつながる重要な拠点であり積極的な運営が求められる。

町長

株主総会で営業計画が不十分との指摘を受け、計画の補強・見直しを図っている。

町長

第3セクターといえどもお客様、株主様、従業員、仕入先など関係するすべての方々に対し責任を持ち続ける義務があり、それを預かっているという厳しい自覚を持つことが経営責任と思っています。



生きる権利



育つ権利



守られる権利



参加する権利

子ども権利条約（公共財団法人日本ユニセフ協会ホームページより）



藤原 芳幸

- まちの課題へどう対応するか
- 特色ある教育の推進

問

この町に住み続けるための対策は

答

地域全体での支え合いが必要

安心して住み

続けられる町へ

質問

長年この地で暮らしている方々がこれからも暮らし続けていけるよう、行政も対応策が必要と考えるが。

町長

今の社会経済情勢に合わせ、生活支援の政策予算を提案した。仮に、介護が必要になっても、住み慣れた

地域で暮らし続けていけるよう、これまでのサービスを維持していく。

高齢化により除雪などが町外転出の一因となっているが、生活基盤の

安定的な確保を図り、

自助・互助・共助・公助といわれる地域コミュ

ニティ力を強化し、地

域社会全体で支え合い

が必要と考えており、

関係機関、団体と連携

して取り組んでいく。

子育て支援の

拡大を

物価高騰の影響で学校給食も

運営維持のため対策が必要ではないか。

その際、子育て支援

の観点から食材費への

補助率の見直しを検討

してはいいかがか。

厳しい状況ではあるが、制度変更する段階ではない。保護者世帯も支出が増え、厳しい状況であることから、現行水準を維持する。

国の異次元の子育て政策に期待しており、内容が明らかになり次第、速やかに町政に反映させたい。

町長

厳しい状況ではあるが、制度変更する段階ではない。

保護者世帯も支出が増え、厳しい状況である

ことから、現行水準

を維持する。

国の異次元の子育て

政策に期待しており、

内容が明らかになり次

第、速やかに町政に反

問

仁宇布小中学校の魅力は

答

少人数を活かした専科教育

質問

英語と山村留学を本町の特色ある教育として推進しているが、英語教育の特徴は何か。

仁宇布小中学校は留

学生の安定的確保が必須で、より魅力的な学

校づくりが求められる

が。

教育長

幼児から高校生までを対象に、「英語が使える美深人の育成」を目標にALT2名を採用し進めている。子どもたちが楽しく興味を持って

よう努めている。

仁宇布小中学校では

少人数の特性を活かし、

児童生徒の個性に応じた指導や専科教育で学

力の向上を目指してい

る。

情報発信は従来の手

法に加え、PTA活動

による新たな発信や山

村留学推進協議会でP

R事業が検討されるな

ど地域からの発信も増

え、期待している。

子ども達にすっかり定着した学校給食



●水田活用直接支払交付金の見直しに伴う
今後の美深町農業について



中瀬 亮太

問 水田活用直接支払交付金の
見直しに伴う影響は

答 今後の農業経営に大きな影響を
及ぼす懸念がある

質問 美深町における試算では、令和8年度で水田活用直接支払交付金事業が廃止され、交付対象水田が全て対象外となった場合、交付金が2億9175万8千円減額となる見込みである。

町長 美深町や農協など、農業関係機関で構成される協議会が実施主体となり、講師を招いて説明会を開催した。

町長 本制度の見直しによつて、本町は大きな影響を受けると認識しており、今後も農政事務所と連携を図り、情報提供を行っていく。

質問 水田活用直接支払交付金事業廃止後の美深農業への影響と対策についての考えは。

町長 畑地化への転換により、今後は農業経営や農地の利用集積などに影響を及ぼすことが懸念される。

町長 短期間で畑作と米作を繰り返すブロックローテーションを検討する農家もあるが、排水対策や基盤整備などの生産コストの増大や品質の低下が懸念されるため、取り込む農家は少

ないと見込んでいる。今後は、経営基盤の安定化と農用地の有効利用を図るため、土地利用型作物や施設野菜の振興を図り、担い手の育成・確保に努め、経営規模拡大を目指す経営者を中心に農地の流動化を進めて参りたい。

質問 国の水田基盤整備事業には様々な要件、条件があり、さらに採択には時間を要するため、町として独自の基盤整備を支援する施策の考えはあるか。

町長 本町の基盤整備事業は、生産性の向上や農作業の効率化・農地利用集積を図るため、道営の農業農村整備事業によって農道の整備や暗きよ排水などを計画的に進めていた。

町長 今後も基盤整備を希望する方については、計画的に要望をいただき、まずは国や道による支援事業を進めることを優先し、質問のあった基盤整備事業への支援については、農協などから具体的な要望や意見を聞きながら検討していく。



美深町移住体験

金崎 千奈さん

移住対策で農業支援

○町内の空家を活用し移住者を増やす。
○農業体験を通じて、興味を持ってもらい新規就農に結び付ける。



保育士応援計画

平良 咲ら子さん

子育て支援で若者の定住へ

○就業応援金や継続支援金、家賃補助などで保育士不足を解消。
○子育て環境の向上で若い世代の移住を増やす。



スノーアクティビティパーク

茶谷 雅文さん

冬の観光で町に賑わいを

○スノーモービル、犬ぞり、雪上マウンテンバイクや自然散策体験などで冬の観光客を呼び込み、夏のトロッコと合わせて年間2万人の入込客を目指す。



テーマ「美深町をより良くするために」

今春卒業した仁宇布中学校3年生5人が議員と交流しながら美深町の課題を学習し、決められた予算額の中で何ができるのかを考えました。
令和5年2月27日同校体育館で「美深町をより良くするために」をテーマに発表が行われ、全議員が参加し熱心な発表を聞かせていただきました。

氷祭り・雪像祭り計画

藤原 悠羽輝さん

冬のイベントで観光客の誘致

○冬の厳しい自然環境を活かして、氷雪像やアイスキャンドルを参考にしたイベントを企画。像やフォトコンテストで観光客を増やし町に興味を持ってもらい、定住促進につなげる。



フォレストアドベンチャー

宮下 大輝さん

森林活用で地域活性化

○地元の山、森林を活用し、親子で大自然を満喫できるアドベンチャーワールドをつくり、地域活性化させ人口増を目指す。



最後に議長からの講評がありました。

特集・函岳のめ

4人の新しい議員が加わり、改めて各議員に今後の目標を伺いました。



3



中瀬 亮太

- ・地域産業の活性化を目指し、美深町の魅力を次世代の子どもたちへ伝えて参ります。
- ・広報等を通じて、同世代にも町政への関心が高まるようアクティブに活動致します。

2



望月 清貴

- ・美深町の福祉と医療を守る。
- ・安全と安心や教育に貢献。
- ・働く人に貢献。
- ・明るい議会に貢献(頭・笑)。

1



木下 広悠

- ・SNSを活用した宣伝活動の推進
- ・積極的な町民との対話
- ・行政への正当な提言
- ・魅せる議会の実現

6



田中 真奈美

町民の声が届く『暮らしやすい町』としての美深町であってほしい。「美深に住んでよかった」と伝えてもらえるように尽力したいです。

5



蠣崎 一生

農林業の振興によって若者の雇用機会を拡大し、地域経済全体の活性化を目指していきます。

4



名取 明美

私が目指すまちづくりは、子どもと高齢者に手厚く配慮し、明るく元気に暮らせる未来にしていくことです。

9



和田 健

町内産業の振興・活性化、教育の充実を図るよう産業教育常任委員長としての役割を果たしていきます。

8



藤原 芳幸

議会と町、知恵を出し協力し、時代に合わせた事業改革を目指します。

7



小口 英治

- ・子ども、高齢者とも元気に夢と生きがいを持つようにすること。
- ・気軽に町民と議員の垣根がないよう意見を言ってもらえるようになりたいし、その声を町づくりに反映したい。

11 南 和博

- 農業、林業振興で経済活性化と人口減少抑制
- 公共施設等の効率化と集約化
- 新議会の多様な意見の取りまとめ



10 荒川 賢一

- 基本的サービスの拡充
- 公共サービスの維持
- 次世代に向けたまちづくりの連携
- 人流拡大による地域に好循環を目指す



全道町村議会議長会から長年にわたり議会活動に寄与されたとし、南議長と齊藤前副議長に対して自治功労者の表彰が6月19日の定例会の折、議場で伝達されました。

☆☆☆ 2氏に自治功労表彰



☆☆☆

6期24年にわたり議会議員を務め、また副議長としてもご活躍され、議会にも大きな足跡を残されたことから、齊藤和信氏に対し議会から表彰状を贈呈しました。

☆☆☆ 退職議員に表彰



☆☆☆

議会の動き

- | | |
|------------------|------------------|
| 5/ 8 第2回臨時会(初議会) | 7/ 4 全道町村議会議員研修会 |
| 5/16 全員協議会 | 7/10 議会広報特別委員会 |
| 5/18 議会運営委員会 | 7/14 議会広報特別委員会 |
| 6/14 全員協議会 | 7/19 全道町村議会 |
| 6/22 議会運営委員会 | 7/20 議会広報特別委員会 |
| 6/23 議会広報特別委員会 | 7/21 和寒町議会行政視察受入 |
| 6/28 一般質問 | 7/31 議会広報特別委員会 |
| 6/29 一般質問 | 8/ 8 総務住民常任委員会 |
| 6/30 議案審議、定例会閉会 | 8/ 9 議会広報特別委員会 |
| | 8/17 全道町村議会広報研修会 |
| | 8/21 産業教育常任委員会 |
| | 所管事務調査 |

政務活動費収支報告

(令和4年度分)

(円)

議員名	交付額	使用額	返納額
名取 明美	156,000	50,321	105,679
田中真奈美	156,000	68,669	87,331
和田 健	156,000	156,000	0
岩崎 泰好	156,000	156,000	0
藤原 芳幸	156,000	44,249	111,751
小口 英治	156,000	156,000	0
中野 勇治	156,000	43,291	112,709
荒川 賢一	156,000	156,000	0
齊藤 和信	156,000	156,000	0
南 和博	156,000	156,000	0
計10名	1,560,000	1,142,530	417,470

収支の詳細は情報公開条例により閲覧もできます。

美深 まち なか 街 & 仲 インタビュー 第5弾

JA北はるか青年部

今回はJA北はるか青年部の皆さんです。授業講師として小学校に訪問中とお聞きし、お邪魔しました。現在の形になって何年目？

▼平成15年に美深、下川、音威子府、中川の合併で新体制となり、現在は32名で活動しています。

主な活動を教えてください

▼地域貢献、社会活動や小学校の食育活動などです。また、お祭りやイベントの参加です。

▼毎年上川管内全体のJA青年部大会というのがある活動報告会などを行います。▼コンテストもあって、全道大会や全国大会があるんです。

面白い！今年北はるかはエントリーしますか？



▼もちろん！

▼一昨年は30秒CMでドローンを使って撮影したものが、優秀賞をもらいました。

すごい！見てみたいです（大興奮）

▼今年「純農ボーイ」コンテストがあります。

ジュノンボーイ？

▼「純農（ジュノンウ）ボーイ」です（笑）

▼過去に彼らもエントリーしてました。（指さして）

▼イケメンしか出れないんだよね（笑）

今後の活動は？

▼今年「商工会や道の駅などイベントをやっている」と思っている、行政も協力していただくと（笑）

全員 笑

今直面している悩みや伝えたいことはありますか？

▼人手不足で困っている農家さんが多いので、組織や町で斡旋してくれと…。

▼農業は3K「きつい」「汚い」「危険」と言われがちですが、機械化が進んでいるし、やり方で儲けることもできるので、今までの農

家のイメージとは違うと伝えたいです。

最後に。農業とは。

▼農業にアコガれて働き出しましたが、知れば知るほど面白い。

▼生まれた時から農家だし、生きていくための手段かなあ。▼生きがい。

全員 かつこいい!!

▼牛がいなかったら農家にはならなかったかも。

美深の基幹産業を守る北はるか青年部の皆さんの農業を思う熱い気持ちを伺いました。

町内のイベントには参加することが多いんですけど、ぜひ素敵な「純農ボーイ」に声をかけてみてはいかが？

今号の表紙



北海道遺産・天塩川を舞台に第30回を迎えたダウン・ザ・テツシ・オ・ペツ（天塩川カヌーツーリング大会）。社会全体がコロナ禍からこれまでの日常を取り戻しつつあり、今年は4年ぶりの2日間の通常開催となりました。7月15日に113艇、222人が美深アイランド・カヌーポートを出発し、ゴールの中川町を目指しました。